



# 令和6年度 上志比中学校 スクールプラン

上中教育のガイドライン

40年近くにわたり本校の教育の礎となっている『礼の心』は、生徒にとって、人生の指針となる大事なものとなっています。ただ、小規模校の生徒にとって、人と関わる「自己発信力」も大切と考えます。礼の心の追求しつつ、「相手に伝える心」「相手の言葉に応える心」を育て、人間関係構築に対応できる「コミュニケーション能力」の育成に努めていきたいと思ひます。

また、「上中ならではのきめ細かい教育」で学力を向上させると共に、学級活動や行事で「責任感」を意識させる活動とポジティブ教育をリンクさせる事で、「協力性」と「リーダー性」を育み、失敗を恐れない「生きる力」を身につけさせていきたいと思ひています。

## 三 気

- ☆ 見る気
- ☆ 聴く気
- ☆ やる気

～「三気」を奮い起こしてほしいという願いをこめて～

**教育目標**  
求め 鍛え 磨き そして夢実現

**めざす生徒像**  
『礼の心』を追求する生徒  
心身を鍛える生徒  
お互いに切磋琢磨する生徒  
自分の力を発揮する生徒

**重点目標** “見る気・聴く気・やる気” 気力のある実践

**■ 豊かな心を育てる**  
・『礼の心』により自己を見つめ、他者を認める相互理解の心を高めたい

**■ 確かな学力をつける**  
・基礎学力の定着の上に、協働による深い学びで、「生きる力」を育みたい

**■ 健やかな身体を育てる**  
・心身ともに健康な生活習慣の形成と体力の向上を図りたい

**■ 信頼される学校をつくる**  
・「上中ならではの教育」を進め、保護者や地域の願いを具現化する学校にしたい

幼・小・中の連携：地域の特性を活かした「上志比地区」ならではの教育課程の編成・教育活動の実践

### 具体的な取組

◎「礼の心」を通して自己を見つめ、人へ、物へ、生きていることへの感謝の心を育てる

- ・心のこもった校門での礼、自分の心を磨く無言清掃、感謝していただく無言給食
- ・相手の心に届く、語勢のある返事と挨拶
- ④心を込めて校門での礼をしたと評価をする生徒が95%以上

○個性を伸ばし、自分の生き方を見つける

- ・生徒に付けた力や力を明確にした指導
- ・生徒の能力を見極めた、個性の伸長
- ・生徒の力による学級・生徒会活動や、学校行事。PDCAサイクルの徹底
- ・自分の個性と可能性を意識した将来の目標の設定とそのための努力・過程の重視
- ④自分の夢や目標に向かって努力したと評価をする生徒が80%以上

○ポジティブ教育の推進

- ・「挫折に負けない心」「強く生きるスキル」の育成を目指すSST及びレジリエンス教育の推進
- ④失敗を恐れず、様々な事に意欲的に取り組んだと評価をする生徒が80%以上

◎個に応じた、きめ細かな指導を推進する

- ・気がかりな生徒の特性を見極めた適切なサポートと、生徒の理解を深める研修の実施
- ・基礎学力の定着(HMT、さわやかコーナー活用)
- ・能力に応じた家庭学習の設定
- ④授業の内容がだいたいわかったと評価をする生徒が80%以上

○お互いに高め合う協働型授業を推進する

- ・ペア、トリオ、グループ学習の効果的な利用による意見の深化と、自説の再構築を図れる授業構成
- ・生徒が興味を持って取り組める学習課題設定の工夫
- ・ICTを活用した生徒主体の学習活動の充実
- ・外部機関と連携した教師の指導力向上(校内研修、小中連携、中中連携、研修講座)
- ④授業が楽しく、学習に集中して取り組んでいる生徒が85%以上

◎基礎体力の向上を図る

- ・地域移行を踏まえた、顧問・地域指導者・部員の協働による部活動
- ・生徒が参加したくなる「さわやかマラソン」等の活動の工夫
- ④部活動や朝マラソンで基礎体力がついたと評価をする生徒が80%以上

○健康な生活の習慣化を図る

- ・マイカルテと連携した生徒の状況の的確な把握
- ・目・歯・手・換気を重視した保健指導
- ・情報モラル研修の充実と継続的な生徒・家庭への啓蒙
- ・生徒会活動と家庭との連携を中心とした改訂版上中スマートルール遵守の意識向上
- ④メディアや通信機器で生活のリズムが乱れていないと評価をする生徒が80%以上

◎学校を保護者・地域に開いていく

- ・学期1回以上の学校開放日の設定
- ・行事は勿論、授業や生徒会活動、日常生活の様子を中心とした「見たくなるHP」の作成
- ・ふるさと学習等での地域の人材活用
- ・地域への関心を高めるふるさと学習・ボランティア活動の充実と、地域活動への積極的参加
- ④学校の情報を月1回以上は発信したと評価をする教職員が100%

○保護者との連携を密にする

- ・チーム学校での保護者対応。正確な情報共有による素早い連絡と相談、および適切な家庭訪問の実施
- ④「学校は信頼できる」と評価をする保護者が85%以上

○いじめについて緊張感をもって生徒と接する

- ・生活ノートやアンケートによる確実な生徒の状況把握と保護者への連絡。外部機関との連携
- ④いじめに的確に対処したと評価をする教職員が100%

